

## 「フェア・トレード」

(課題文献：林昌宏訳「コーヒー、カカオ、コム、綿花、コンヨウの暗黒物語—生産者を死に追いやるグローバル経済」／市橋秀夫訳「フェア・トレードとは何か」)

### I. 国際貿易の現状と問題点

現在、国際貿易では急激なグローバル化のもとで、競争力を持たない発展途上国の貧困問題は深刻化し、世界の貧富の差は広がる一方である。超国家企業が世界の隅々まで進出していく一方で、これらの競争力を持たない地域の人々はどんどん経済的・政治的弱者へと追いやられ、昔からその地域に根付いている地域産業・小さな生産者は存続の危機に陥っている。

### II. 定義

フェア・トレードとは…

グローバル化の進む国際経済において競争力を持たない生産者から直接、従来よりも高い値段で継続的に商品を買うことで彼らの生活を支え、自立を目指すというシステムである。また、生産者から直接取引することで中間マージンを排除し、その分生産者が利益を多く受け取るという仕組みを作り、取引を継続することでその仕組みをゆっくり大きく育てることが可能になる。

### III. フェア・トレードの具体例

“もしもアナタがスタバへ行って『カフェアメリカノ』を注文したら♪”

→定価320円の『カフェアメリカノ』が、フェア・トレード価格だと約333円に値上げ。ちょっと不満？！

しかあし、そのおかげでこんなコトが出来ちゃうんデスっ！！

	付加された金額	生産者1人あたりの賃金上昇率/日
1杯	13円	18% (71円→84円)
2杯	26円	36% (71円→97円)
3杯	39円	54% (71円→110円)
4杯	52円	72% (71円→123円)
5杯	65円	90% (71円→136円)

ここで、貧困ライン  
(1日1ドル以下)脱  
出っっっ！！

#### IV. フェア・トレードの問題点

・安売り競争が進む国際経済の中で、従来の商品より割高なフェア・トレード製品が実際に販売競争を生き残れるのか？

・フェア・トレードの恩恵を受けているのは最も貧しい人達ではなく、既に教育水準が高く一致団結した活動的な農民達がメンバーとなっている協同組合である。

→援助を必要とする底辺層の農民達にとっては効果的な解決策とはいえない。

・フェア・トレードは直接生産者と取引することにより、中間業者を省きコスト削減を目指しているが、実際にはフェア・トレード商品の認定を行う業者を雇わなければならない、結果的に効率よくコストが削減できているのか疑問である。

・フェア・トレードに関与している巨大企業の多くは、ある地域から良心的なフェア・トレード価格で商品を買っているが、一方で従来のやり方で生産者から多くの商品を買っている。

→企業のイメージアップのためにフェア・トレード商品を取り扱っている場合がある。

(『上乘せ金』がキッチンとどこに届くのかを消費者に対して間違いなく保証するために、上乘せ金の大半を使ってしまうことになる巨大な官僚的業務体制が必要となり、この官僚的業務体制が、生産者に対する独裁を打ち立ててしまう可能性がある。)

#### V. フェア・トレードに対する専門家の意見

(賛成派) 「フェア・トレードとは何か」より

現在、数多くの企業が市場で競争を繰り広げている中で、各企業は生き残っていくために“コスト削減”を目標に掲げている。しかし、“低コスト”を実現するために様々な弊害が生じている。チョコレート事情を一例として考えてみると、この目標達成のために『低賃金労働』『多量の農薬散布』『土壌酷使による肥沃な土地減少』といった問題が起こっている。これらの問題を解決するためにフェア・トレードを推進するなら、次に挙げるような利点が望まれる。

①生産コストに4%付加(≒消費者負担)することで、25%の割増金を生産者に支払うことが可能となる。

②小規模農地で品質の高い製品を生み出すことが出来る。

③フェア・トレード商品が主流になるなら、各企業には政治的・社会的圧力がかかることになり、現状の改善が期待できる。

→つまり！！

フェア・トレードは、現状を打破し『農民』『消費者』『生態系』にとって“吉”となる解決策といえるのである。

(反対派) 「*コーヒ、カカオ、コメ、綿花、コシウの暗黒物語*」より

筆者はフェア・トレードでは現在の国際経済問題の本質は解決することはできないと考える。そればかりか、フェア・トレードに過剰に注目することで、問題の本質がぼやかされている、と主張している。

筆者の考える現在の国際経済問題の本質とは・・・

- ① “国際協定” や “国内価格調整制度” の消滅による製品価格低下の限りない進行。
  - ② 生産環境の悪化に伴う、品質低下による製品全体の消費量の減少。
  - ③ 生産国間の再分配協定などの国際的保護を受けている地域とそれ以外の地域の不平等。
- などである。

これらの問題の解決策としては、

- ・ グローバル化を推し進めてきたことで巨額の利益を手にし、発展途上国の生産者の生活条件を悪化させてきた巨大多国籍企業に、先進国で計上した利益を生産者に還元することを要求すること。
- ・ 国家が一次製品の消費に対して輸入業者に課税する、または、その課税した資金を原資として価格調整のための国際基金を創設するということが要求し、その基金の資金は非政府組織の管理の下、毎年、輸出状況に応じて様々な国に配分する。また、非政府組織はその資金がきちんと最終目的地に到達しているかを検証する。同様の国際的機関を創設することにより生産者にきちんとした報酬を約束するというシステムを作ること。

などが挙げられる。

## VI. 論点

☆近年、ヨーロッパではメディアがフェア・トレードを過大に取り上げており、『現在の国際貿易においてフェア・トレードが明日にでも圧倒的な優位を誇り、従来の国際貿易に取って代わるのではないのか』と思われているが、限りのない安売り競争の真っ只中にある流通業界において実際にこのようなことが起こりうるのだろうか？

☆消費者が安い商品を求め続けた→国際協定廃止→自由貿易が発展→グローバル化に伴い価格競争激化→発展途上国の生産者の生活環境悪化→解決策としてのフェア・トレードがヨーロッパを中心に流行…

→国際協定のような失敗を繰り返さないためにはどうしたらよいだろうか？

☆日本でのフェア・トレードの活動状況は、欧州・米国などの海外の先進国に比べてかなり遅れており、またフェア・トレードに関する認識も低いとされている。その理由として、日本は先進国としての歴史が比較的浅く、フェア・トレード商品を扱う団体が未熟であり、販売方法も取り扱い団体の直営店やインターネット・通信販売がほとんどで一般的なス

スーパーマーケットでの取引が少ないこと等が挙げられる。企業の社会貢献という面から見て、日本もフェア・トレードに積極的に参加していくべきだと思われるが、そのためにはどのようなことが必要だと思いますか？

☆フェア・トレードの利点は、普段の買い物をするという行為によって途上国の低開発地域を救えるという、実践的かつ満足感の得られる手軽な手段だということである。しかし、実際には上記の通り様々な問題を包括している。

以上の点を踏まえて、あなたは今後フェア・トレード商品とどのように接していきますか？

## **VII. 私見**

フェア・トレード商品が消費者にとってもっと生活に密着したもので、より魅力的なものであれば、自然と知名度が上がっていくのではないかな？

→消費者がフェア・トレード商品に対して一種の高級ブランドのようなイメージを持つようになれば、多少高くても納得するだろう…

→自由貿易によって利益を得た大手企業が援助の一環として、フェア・トレード商品にブランドイメージを定着させ、消費者に浸透させるよう努力する。(←ゆくゆくは、生産者の自立につながる。)